

平成29年度 事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日 平成 29 年 4 月 14 日

Table with columns for 事務事業名, 橋梁定期点検, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, 法令根拠. Includes details for '道路整備と交通網の充実' and '道路橋梁総務事業'.

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当者が行う業務の内容・やり方・手順. Includes text about bridge maintenance and safety.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with 5 columns for years (27-31) and rows for ①手段, ②対象, ③意図. Includes metrics like '2m以上の橋梁数' and '点検された橋梁数'.

(3) 投入量(事業費)の推移

Table showing cost breakdown by source (国庫支出金, 県支出金, etc.) and personnel costs (人件費) for 28 and 29 fiscal years.

Table showing internal costs (事業費の内訳) for 28 and 29 fiscal years, including '13 委託料' and '合計'.

(4) 当該年度の実施内容

Table with 4 columns for 29, 30, and 31 fiscal years. Includes a list of main activities and a right-pointing arrow.

事務事業名	橋梁定期点検	事務事業No.	40603000975	所属課	建設課
-------	--------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	橋梁等の道路構造物が急速に老朽化していくことを踏まえ、各道路管理者の責任による点検→診断→措置→記録というメンテナンスサイクルを確立するため、道路法施行令第35条の2第2項の規定に基づき、道路法施行規則において、道路の維持・修繕に関する具体的な基準等を定めるため、「道路法施行規則の一部を改正する省令」及び「トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示」を平成26年3月31日に公布され、同年7月1日より施行された。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	「メンテナンスサイクルを構成する点検・診断・措置・記録は各道路管理者の責任であること」「点検は、国が定める統一的な基準によって、5年に1度、近接目視による全数監視を実施すること」との学識経験者等から意見が寄せられた。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 良好な管理の下に未永く利用するため、安全かつ円滑な交通の確保ができる。
目的妥当性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 市が管理する橋梁であり、管理者である市が行うことは妥当である。また、橋梁の変化についての情報も管理者が把握するなどの点からも市が行うべきである。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 道路法の改正、省令・告示の施行により、橋梁の点検は、「近接目視により5年に1回の点検」が義務付けとなり、国土交通省による国費の支援制度を利用するため、現在計画が最適な手段である。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 義務化された点検でもあり、道路管理者の責任として廃止することは出来ない。
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 橋梁の点検であり、類似事業はない。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある 橋長が短い橋梁については、直営点検による対応が考えられる。しかし、研修などを通じ知識を習得していく必要がある。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市内の橋梁(橋長2m以上)を対象とし、一部に偏ることはない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																				
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	5年に1回の点検が義務化されたことにより、全橋梁の点検を計画的に進める必要がある。今年度は国庫補助金の補正を活用して前倒しによる点検を実施した。今後の方向性として1サイクルの点検完了後は、経費節減のために直営点検を視野に知識を習得すべきと考える。																				
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																				
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																				
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <tr><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr><th></th><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr><th rowspan="2">成果</th><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	コスト				削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
コスト																					
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	○																			
低下																					
経費を削減するために、可能な限り直営点検を実施すべきだと考えるが、現時点では民間委託と同程度の成果を職員での対応は難しい。道路メンテナンス会議を通じた点検講習会をはじめとした各種研修会に積極的に参加し、職員の技術知識の向上を目指す必要がある。	(6) 事務事業優先度評価結果																				
	成果優先度評価結果																				
	コスト削減優先度評価結果																				

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>